

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092100021		
法人名	一般財団法人 榛名荘		
事業所名	グループホーム榛名荘		
所在地	高崎市下室田町965-1		
自己評価作成日	平成26年4月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年5月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域の方がたとの接点を持つように心掛けています。食材や家電、住宅改修に至るまで、近隣の商店を利用しています。建物が総合ケアセンターとなっていて訪問看護とは、医療連携をとっており、緊急時は、すぐに看護師が、駆け付けてくれます。又、在宅部門の、訪問介護、居宅介護支援事業、複合型事業所が有り、常に連携を取り、地域の方がたの支援体制を強化しています。敷地内には、軽食喫茶が有り、こちらでも地域の方がたとふれあいが持てるようになっています。
 ・共用デイサービス事業を行う事により、グループホームの利用者様が、閉鎖的な、日常にならないように、しています。又、共用デイを利用して頂く事で、認知症高齢者やその家族が住み慣れた地域での生活が継続出来る様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、認知症対応のケア(本人の気持ちに寄り添い)で、その方のペースで生活動作がすすめられるよう支援をしている。限られた環境(スペース)を有効に活用して、利用者が日常的に散歩や外気浴ができるようにウッドデッキの設置及び敷地内に軽食ができる喫茶店があり交流の場を設けている。法人は、総合ケアセンターを運営し、医療連携のために在宅支援サービスをもち、事業所では特に看護師の緊急サポートが行われ、日々の健康相談等ができる体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目的つきやし場所に掲示し、理念の意義を常に考え行動するようにしている。そぐわない行動が見られた場合、度管理者をまじえ話し合いをおこなっている。	事業所理念の活用は、言葉かけに注意を払い、基本的に〇〇サンと呼びかけ、日常的に気になる対応などを話し合いながら、理念に基づくケア提供に努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道路清掃をはじめ、祭り等の地域の行事への参加、地域の中学性、高校生のボランティアなどの受け入れをし、交流を図っている。	職員が、地域の道路清掃に参加している。これまでの交流から、祭りの神輿が敷地内に入り、利用者参加ができ楽しんでいる。また、地元の中・高生の実習やボランティアの受け入れを行い、交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散髪や散歩に出掛けることにより、地域の方と顔馴染みになり認知症の方に対する理解を深めて頂いていると感じている。職員が地域の高校で、ヘルパー研修に出向き、認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて報告や話し合いをおこない、出された意見などは議事録として記録し、全職員が目を通し参考にしている。	会議は、併設小規模多機能型居宅介護事業所との合同で定期開催を行い、活動の報告や意見聴取を行なっている。過去に、「地域行事への参加」の呼びかけの意見を受けて、実践にいたっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホームの空き情報など包括支援センターに提供しながら、当ホームの状況を知って頂くようにしている。定期的に介護相談員の方に来ていただき、利用者様の話しを聞いてもらっている。	包括支援センターには、困難ケースや看取りの相談を行い、協力関係を築いて連携を図りすすめている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、緊急をやも得ない事情がない限り常に鍵を開けて置き、自由に入出入りして頂いている。	法人内研修(年4回)を開催し、テーマを身体拘束についても設けて、職員は理解している。入居者の行動については見守りを重視し、一人ひとりに寄り添い支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃さないよう、どんな小さな出来事でも職員同士がお互いに注意し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業は、利用している方が有り学んでいるが、成年後見制度については、研修等を行う必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は契約者に基づいて実施しており、解約時は状況に応じて家族と話し合いを円滑に行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームに意見箱を設置したり、毎年クリスマス会などを開き家族との話合いの機会としている。	意見箱の設置をしているが、意見の投入はほとんどないことから、家族の方の面会時及び電話での報告時の会話の中で意見聴取ができるような関わりに努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1のカンファレンスや、気になっていることがあった場合、随時話し合いの場をもうけている。話し合ったことに関しては記事録とし記録を残し、全職員で状況、意見を把握している。	定期カンファレンスを行い、随時職員から意見を聞いたり、話しやすい関係ができており、職員から勤務内容の提案があり、運営に活かした取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員が向上心を持って働ける様、努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアセンター内で研修会を定期的にもち、参加しやすいようにしている。 又、都合の付く限り、外部の研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交換研修や、他部署への交換研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人が不安に感じていること、要望などを聞くと共に、生活歴などの情報も取り入れ、その人らしい生活を支えると共に、日常生活を送るうえで必要な支援を見つけ出している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用者の関係を把握し、不安に感じていることに対し随時相談できる環境に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人と家族の両方から話を聞き、利用者にとって必要とされる支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個性を活かし、「一人の人間として生きている」を頭に置き、日常生活に必要な事柄をサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループ便りを二ヶ月に一度発行し、家族絵への情報発信手段としている。又、通院などに係わりを持って頂くと同時に、衣類などの入れ替えなども大切な関わりの一つとして考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会や、知り合いの面会など、面会時間時間を定めておらず、随時対応している。	近隣の方が訪れたり、地元の神社への散歩及び菊花展と一緒に出かけたりしている。その他、外出時の交流・思い出話を聞くなどして、関係継続の支援に繋ぐ支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を見つつ、距離感を保ちながら良い人間関係を保てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の支払いや、顔を合わせる機会も多くある為、さりげなく近況を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人と家族に確認している。	入居者の方の今を大切に受けとり、観察や声かけにより、落ち着いた時間を過ごすことができるようにしている。困難なときには家族情報も加えて、日々の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを利用して、入居前と入居後を通して確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画作成時にアセスメントをし、確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが作成する介護計画をカンファレンスで話し合い、変更点があれば修正し、介護計画を作成している。	身体的変化が生じたときには、チームでの話し合いが行われケア変更の仕組みはあるが、介護計画書の修正に及ばないケースがある。	利用者の変化が生じた際には、介護計画作成について関係者の意見聴取を反映した援助計画を作成し、共有が図れることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、本人の言葉等をケース記録に記入し、申し送りノートやカンファレンスを活用しながら情報を共有し、ケアにあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方と相談しながら、個別の要望に応えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域の中で安心して暮らして頂けるよう、民生委員と地域の消防署に協力してもらっている。近所の中高生のボランティアが定期的に来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重している。又、個々の状態によって往診して対応している。	本人・家族の希望に添い、主治医を選択している。基本、受診引率は家族にお願いしているが、都合がつかない場合には職員が付き添い支援ができる。月に2回協力医の往診があり、健康相談を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当センター内の訪問介護と連携を図り、伝達事項はノートに記載し情報交換を行っている。体調に変化等見られた時は、すぐに連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係との情報交換、関係作りに訪問看護も携わり、経過の伝達や情報交換をおこない、適切なケアの提供やサポートを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームの現状を踏まえ、家人と話し合いながら実践している。	入居後、身体変化(重篤な状態)となった折に、主治医・看護師の意見を受けて家族と話し合い、希望があれば終末期対応も考えている。直近にも事業所にて見守りの下、見送り支援を行った。	重度化・終末期に向けた支援の方向について、早い段階で家族・本人の意向等の確認ができ、関係者の意見共有が図られた取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員にはグループ協会が行う研修に参加してもらったり、全職員を対象とした急変、事故発生時の対応訓練などを定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度は、昼夜の想定で、避難訓練を行っているが、地域の方の参加は、出来ていない。	消防署立会いの下及び事業所独自に毎月の避難訓練を実施している。災害時に備えた連絡網作成、3日分の食品の備蓄をしているが、地域の方の協力体制の仕組みに及ばず課題としている。	事業所が課題としている、地域の方々との協力体制づくりの取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけない声掛け対応に注意している。	利用者一人ひとりを尊重した言動に注意(トイレ誘導・介護上の言葉かけ)を行い、プライドを保持する支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞き、その人らしく生活が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れを基本とし、その中で個々のその日の状態に合わせて過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ちぐはぐな服装をしている時にはさりげなく誘導し、更衣を促す。朝のケア時にはホールに出て来られる前に鏡を見て頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら献立を考え、手作りおやつなどを一緒に作ったり、食事の下ごしらえ、味見などをして頂いている。個々の状態に合わせて出来る事は職員と一緒に行うようにしている。	利用者の好みを把握し、嫌なものは除けるように配慮している。旬な食材(地元産)手作り調理をメインとした献立は一緒に考え作成し、できる方には調理にも参加してもらい、美味しく召し上がれるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一週間の献立を考え、定期的に体重チェックを行い、食事の量や水分量を十分に摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けにて歯磨きをして頂き、個々の状態に合わせて介助、自力にてうがい、義歯を洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄が続けられるよう、下肢の筋力低下の予防に努めている。	排泄チェック表(個人の排泄パターン)での把握の下、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。身体上困難な方には介護用品の活用で支援を行い、気持ちよく過ごせるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に取、野菜を食事に多く取り入れるよう心掛け、毎朝ストレッチ体操を行い、腸の動きをよくするようにしている。排泄困難な方に対しては医師の指示のもと、下剤の使用で対応する場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日は時間を決めずゆっくりと入れるように支援している。又、入浴日以外でも清潔支援が必要とされる時は対応している。	できるかぎり、一人でゆっくり入浴できるように支援を行い、自分でできる行為が増えるように見守り介護の提供をしている。入浴拒否の方にはコミュニケーションを重視し誘い、支援に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や夜間の睡眠の状況を勤務職員で共有し、必要時は昼寝を促したり、休憩をとっていただいたりしている。不眠状態が続く時には主治医と連携を取り安定剤の使用を検討する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問看護の指示により発熱時や、下剤などの使用も一覧表にて掲示され、必要な情報はカンファレンスや申し送りノートを使用し職員が共有できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いがある生活が送れる様に、個々の生活歴や、能力に応じた役割を担ってもらっている。本人の望む気分転換が図れる環境作りや支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の駐車場や、近所を散歩したり、天気の良い日にはドライブに出掛けている。敷地内の商店に出向き、食事をしたり、食卓に並ぶ野菜等の農産物を一緒に選んだりしている。	日常的に、敷地内の商店に出向いての食品の購入や苑庭の花の水やりを職員と一緒にいき、近所にも出かけられる支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かっており、本人が必要としている物がある場合一緒に買い物に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本にの希望により電話を掛けたり、手紙を出したり受け取ったりできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じながら心地よく過ごせるように換気や明るさ、室温などに気を配っている。	共用の居間には、皆で作った貼り絵等の作品・その日の献立・外出時の写真が飾られていて、コミュニケーションの場になっている。ベランダには自由に出入り、外気浴をしたり洗濯物干しができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルに座る際、気の合う同士が近くに座れるよう工夫し、ソファを置きくつろげる場を設けたり、一人で過ごしたい方に対しては自室で過ごしていただいたり、その人にとって心地の良い場所作りを工夫して。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で愛用していた筆筒や、小物等を持ち込み、各居室共趣のある生活空間となっている。また、レクリエーションで作った作品等を飾っている。	居室入り口の小窓には、職員の手作り人形が飾られ、ネームプレートも個人別に分かりやすいように設置している。室内は家族の写真や好みの置物・家具・昔使っていたミシン等を置いて、本人が居心地よく過ごすことができるように支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室がわかるようにネームプレートや飾り物を置いている。各居室からウッドデッキに出れるようになっており、日光浴や洗濯物を干したり出来るようになってきている。		